

## 第2回 地域審議会検討資料

テーマ「地域資源(清流荒川等)を守り活かして、産業の活性化につなげていく具体的方策について」

## 検討の例①

## 産業の活性化の視点から

地域資源と地域産業の活性化との結び付け方として考えられるものは…

- (1) 地域資源を活かした特産品を開発して経済を活性化させる
- (2) 観光やレジャー等で外部から人を集め、経済効果を高める
- (3) 既にあるものも含め、地域製品の「ブランド化」により競争力を高める

などがあげられます。

これらの項目に対する市の施策として、現在村上市が行っているものは…

「産業等の活性化支援補助制度」として

- 産業元気づくり事業補助～特産品開発などに対する補助(50%補助 上限50万円)
- 産業見本市等出展事業補助(50%補助 上限30万円)
- 産業人材育成支援事業補助(50%補助 一人につき上限1万円まで2名まで)
- 商店街賑わい創出支援事業補助(50%補助 上限10万円～30万円)
- 商店街環境施設整備事業補助(50%補助 上限100万円～150万円)
- 観光イベント事業補助(50%補助 上限50万円)

の6つの補助制度を実施しています。

また、今後村上市で取り組む項目として、村上ブランドを高めるための地域認証制度をあげています。(定住の里づくりアクションプラン)

これらの制度の活用状況としては…

現在まで、荒川地区から補助申請している事業は別紙のとおりで、他地区と比較して、地域資源を活用する取り組みが少ない状況です。

**視点①** 荒川地区でこれらの事業に取り組む人が少ない理由は何か？また、取り組む人を増やしていくための仕掛けとして、行政で何をすべきか？

## 検討の例②

## 清流荒川の視点から

現在、「清流荒川」を活用している例としては…

- 鮭、鮎、春マスの釣り、かじか捕りなど
- 金屋小の「青空教室」や「清流と里山の恵み体験」事業などの教育事業
- キラキラフェスティバル(鮭釣りと駅前イベントを組み合わせた事業)

などがありますが、昔から行われてきたものや何年か続いている事業が多いのが現状です。

**視点②** 新たな、また多様な活用が生まれぬ理由は何か？

「活用のネタや方法が分からない」、「川は危険な場所という意識」、「普段、川と関わる機会がない」……